

# 2 行書の学び

## 大人の書く字「行書」

中学生は、良くも悪くも大人の世界に近づきたいと思う世代だろう。それが書写においては、大人の書く字としての行書であってほしいと思う。ところが近年、IT端末の普及によって、手で文字を書く機会は激減した。身のまわりの手書き文字で思い浮かぶのはクイズ番組の解答くらいだろうか。その多くは、中学生にあまり見せたくないような書きぶりである。日常的筆記の通常書体であるべき行書が、身のまわりから失われつつある。

### 行書の導入のあり方

かめなければ、以後行書とは無縁の人生を送ることになる。規範となる行書を見る機会が日常生活にほとんどない現状では、自分の文字を見直すことも少ないだろう。中学校書写の果たすべき役割の大きさを考えざるを得ない。

中学校書写における行書の導入ページは、様々な工夫されてきた。近年は楷書との比較を通じてその特徴を理解することや、単に形の相違だけではなく、運動面やリズム感も重視されるようになってきた。

このような文字環境のもと、中学校書写、特に行書の学びは重要である。生徒が高校で書道を選択しなければ、行書を学ぶのは中学校の三年間しかない。ここで行書の技能をつ

得なければならぬ。『現代の書写』の行書導入ページ(図1)の特徴は、行書がなぜ速く書けるのか、その「ヒミツ」を生徒に探らせるところにある。まず

は楷書の「生」と行書の「生」を指でなぞることで、なるほど行書は速く書けそうだと感じてもらいたい。次に筆記具を持ち、時間を制限して実際に「生」と書いてみる。我流の書き方では、速さと読みやすさを兼ね備えるのは困難であることを理解させ、行書の有効性・必要性へと結びつける。

### 行書へのあこがれ

活字文化全盛の現代にあって、行書に限らずなぜ手書き文字が存在するのか。実用面だけでなく、広く存在意義を考えさせたい。商品パッケージや様々な題字・看板等に、手

書き文字が使われるのはなぜなのか。芸能人やスポーツ選手の手書きのサインを、なぜファンは求めるのか。昔から言い伝えられてきた「書は人なり」という捉え方も中学生には理解できるだろう。身のまわりの手書き文字を紹介しながら、興味をもたせていきたい。

香川大学 小西 憲一  
こにし・けんいち



香川大学教育学部教授。教員養成課程にあって、書写書道の楽しさを伝えられる教員の育成に取り組んでいる。専門は近代篆刻史および篆刻制作。

〈図1〉『現代の書写』行書導入ページ

〈図2〉『現代の書写』行書導入の前のページ